

令和6年度 学校評価

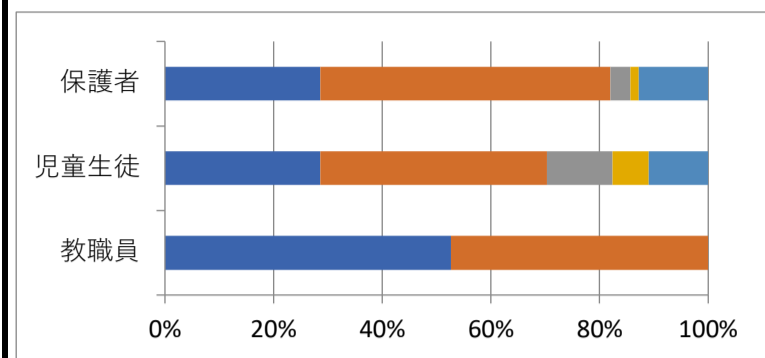
■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない ■ わからない ■

(1) 主体的に考え行動する力を育む教育の推進		考察
1 豊かな心と健やかな体を育む教育の推進 学校は、豊かな心と健やかな体を育む教育の充実に努めていると思いますか。 (感動・感謝、郷土愛、いのちを大切に作る心、こどもの体力向上、基本的な生活習慣など)	2 自ら学びに向かう力を育む教育の推進 学校は、こどもが自分で考え、自分から取り組む授業づくりに取り組んでいると思いますか。	年間を通して行う道徳の授業を中心に、豊かな心を育む教育の充実に努めている。12月には「家庭道徳の日」で道徳の公開授業を行い、親子で感想交流を図る取り組みを実施した。さらに高学年が学んだ「水俣病学習」や「平和学習」を、班ごとに各学年の教室に向いて発表する「いのちの学習」にも全校で取り組んだ。また学期初めには「すこやかカード」を配付し、生活習慣の見直しに取り組んだり、学校保健委員会を実施し、目の健康について考える機会を設けるなど、保健指導や健康教育を推進してきた。その結果、項目1の肯定的評価の割合がともに90%を超えており、豊かな心と健やかな体を育む教育が推進されていることがうかがわれる。 校内研修で「豊かな学び手の育成」という研究主題のもと、組織的に研究を進めながら、全教職員でプロジェクト型学習に取り組んできた。その結果、項目2の肯定的評価の割合が保護者及び教職員については、どちらとも90%を超えている。一方で、児童の肯定的評価の割合は80%を超えて高いと言えるが、保護者及び教職員の評価に比べて低い。こどもが主体の授業づくりについて全職員で取り組んでいく。
(1) 主体的に考え行動する力を育む教育の推進		
3 社会の形成や持続的発展に主体的に貢献する力を育む教育の推進 学校は、学校生活や地域社会をよりよくするために考えたり、行動したりするこどもの育成に、取り組んでいると思いますか。(児童会・生徒会活動、学校のきまり見直し、地域のよさを伝えたり課題解決したりする取組、ナイスライ(中学校)など)		中・高学年での総合的な学習の時間の授業における活動や特別活動を中心に、学校生活や地域社会をよりよくするために、子ども同士で考えたり話し合ったりする取組を行ってきた。また、校外学習で地域の事業所を訪問したり地域の方に来校していただき一緒に触れ合ったりする中で、地域との連携を深めている。その結果、項目3の肯定的な評価の割合が、保護者と教職員については90%を超えている。一方で、児童については肯定的な評価の割合が80%を下回っており、これまでも行ってきたが、行事等を児童に主体的に企画させたり、意見を反映したりする機会を増やすよう努める。
(2) こども一人一人を尊重した教育の推進		
4 5 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実		
学校は、こどもが、学習の方法やペースを自分で選んだり決めたりしながら学ぶ授業づくりを行っていると思いますか。	学校は、こどもが、対話などを通して、他の人の考えや意見を自分の学びに生かすような授業ができていると思いますか。	取り組むべき課題を自ら決定し、他者と協働して有効な解決策をつくり出す力を身につけさせるため、校内研修で教職員が「課題づくり」「評価や振り返り」「子どもと子どもをつなぐ授業」の課題別チームに分かれ、授業づくりの研究に取り組んだ。その結果、項目4では保護者と教職員の肯定的な評価の割合が80%を超えているのに対し、児童の割合は80%を少し下回っている。項目5でも、全体的な肯定的な評価は高いと言えるが、児童の割合は、保護者と教職員に比べて低い。こどもが個別最適な学びと協働的な学びを実感できるような授業づくりに、全教職員でより一層取り組んでいく。
(2) こども一人一人を尊重した教育の推進		
6 特別支援教育をはじめとする多様な教育的ニーズに対応した支援の充実	7 インクルーシブ教育の推進	
学校には、こどもが助けを必要とするときに、先生や友達から支えてもらえる温かな雰囲気があると思いますか。	学校では、こどもがそれぞれの違いを認め、お互いを尊重し合って共に学び合っていると思いますか。	毎週行っている「子ども支援夕会」において、児童の共通理解を図るとともに、定期的にケース会議を実施し、チームとして児童の支援に努めてきた。また、毎月実施している生活アンケート「にこにこアンケート」後には、個別に聞き取りを行い、児童一人一人への指導や対応を行ってきた。その結果、項目6、項目7ともに、肯定的な評価の割合はいずれも80%を超えている。特別支援教育コーディネーターを中心に、今後も職員間で連携を図りながら、児童一人一人に寄り添った支援体制を継続していく。
(3) 最適な教育環境の整備		
8 安全・安心な園づくりの推進	9 地域や家庭と連携した教育環境の整備	
学校は、こどもの安全を守る環境の整備を進めるとともに、安全教育(生活・交通・防災など)に取り組んでいると思いますか。	学校は、地域や家庭の人と協力して、授業や行事などの教育活動を進めていると思いますか。	項目9の肯定的な評価の割合はいずれも90%を超え、全校集会や児童集会における安全啓発や避難訓練の実施など、日頃の安全教育が浸透していることがうかがえる。 また、授業参観後の学級懇話会や学級通信、学校だよりによる情報発信を通して、家庭との連携を深めるとともに、地域のボランティアによる授業支援や各学年の活動への支援、登下校時の見守りなど、地域との連携・協力を推進してきた。その結果、肯定的な評価の割合は、いずれも80%を超えている。 今後も、安全・安心な教育環境を整備しながら、家庭や地域と一体となった教育活動を進めていく。

(4) こどものいのちと権利の擁護

10 こどもの最善の利益を守る環境づくり

学校は、こどもの意見を反映させ、こどもの権利を守るとともに、こどもや保護者が相談しやすい学校づくりに取り組んでいると思いますか。

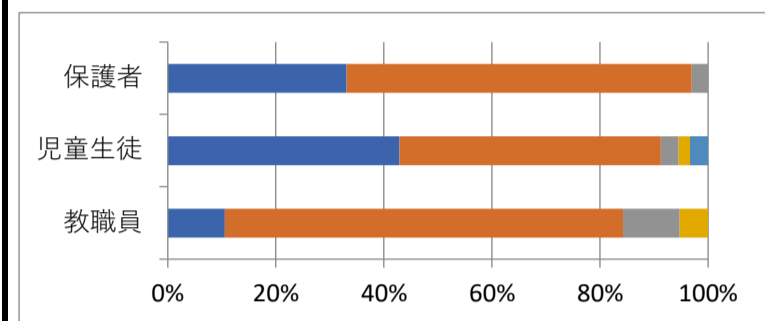


高学年の児童で組織している各委員会での活動を充実させるとともに、定期的に行う児童集会で、担当した委員会が独自に作成した内容を発表する機会を設けている。発表を聞いた児童から感想や意見をもらうことで、一方通行にならないよう努めている。また、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、心のサポート相談員を活用し、児童や保護者との相談体制を整えている。結果として、肯定的な意見の割合は、教職員が100%を達成しているのに対し、保護者は約80%、児童は約70%で比較的低い。また、保護者、児童ともに、他の項目に比べ「わからない」と回答した割合が比較的高かった。こどもの利益を守る環境づくりの在り方について、児童、保護者へのさらなる情報発信に努める。

(5) 本校の教育

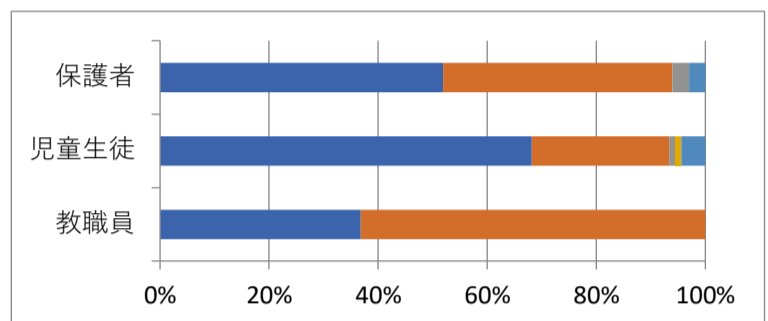
1 1 学習・生活のきまりの定着

こどもは、学習・生活のきまりにそって行動できていると思いますか。



1 2 友だちへの思いやり

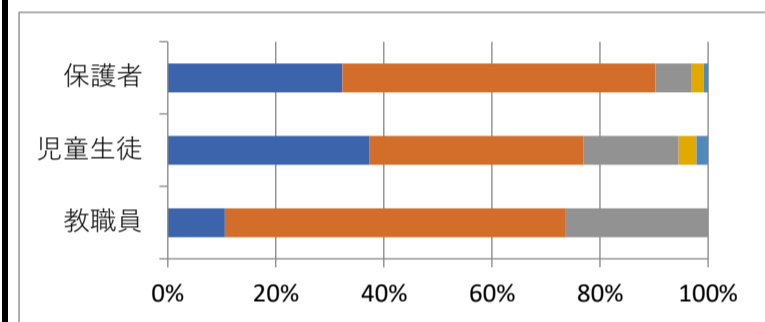
こどもは、友だちと仲良くしていると思いますか。



項目11については、保護者、児童の肯定的評価の割合がどちらも90%を超えているが、教職員は85%を下回っている。今後は学習や生活のきまりに対する児童の意識をさらに高めるために、児童が自らの行動を正しく振り返られるような取組を進めていく。また項目12については、いずれも肯定的評価の割合が90%を超えている。児童同士の交友関係が良好で、少々のトラブルが発生したとしても、児童同士または担任等の職員との関わりによって解決に導いた結果だと考えられる。今後も、職員全体で児童の状況を注視していく。

1 3 基本的な生活習慣の定着

こどもは、規則正しい生活を送れていると思いますか。



項目13については、保護者の肯定的評価が約90%であるのに対し、児童、教職員はともに、80%を下回っている。また、児童、教職員については、昨年度はどちらも80%を超えており、今年度は割合が減少していることになり、基本的な生活習慣の定着には課題があると思われる。生活習慣の見直しについて、取組を検討するとともに、家庭への協力をさらに求めていく必要がある。

来年度の具体的な取組について

- (1) 「主体的に考え行動する力を育む教育の推進」については、年間を通した道徳教育の充実、「家庭道徳の日」の取組の継続、学校保健委員会や保健指導・健教教育の推進による豊かな心と健やかな体を育む教育を推進していく。また、校内研修のこれまでの取組を検証しながら、こどもが主体の授業づくりの在り方について全教職員で共通理解を深めていくとともに、特別活動や生活科、総合的な学習の時間を工夫・充実させ、社会の形成に主体的に貢献する力を身につける教育活動に取り組んでいく。
- (2) 「こども一人一人を尊重した教育の推進」については、校内研修の研究を継続させながら、こどもが主体となって自らの方法で学習に取り組んだり、対話を通して他の人の考えや意見を取り入れたりする授業の工夫や家庭学習の充実を図っていく。また、「子ども支援夕会」やアンケート活用した教育相談などを定期的に行いながら、全教職員で共通理解を図るとともに、児童一人一人に寄り添った支援体制を継続させていく。
- (3) 「最適な教育環境の整備」については、全校集会や児童集会での安全啓発、交通教室や自転車教室などを通しての安全教育、避難訓練を通しての防災教育を年間計画に位置づける。また、地域コーディネーターとの連携を密に図りながら、授業支援や学校活動への協力、登下校の児童の見守りなど、地域学校協働活動を継続して求めていく。
- (4) 「こどものいのちと権利の擁護」については、児童が主体となって行う委員会活動の充実や児童集会の工夫を図りながら、児童の意見を反映させる機会を多く設けるとともに、定期的に来校する心のサポート相談員などを活用した相談体制について児童や保護者に周知していく。
- (5) 「本校の教育」については、「学習・生活のきまりの定着」と「基本的な生活習慣の定着」の項目において保護者、児童、教職員で意識の差が見られたため、集会や学級活動を通して児童が自らの生活を見つめなおす機会を持たせていく。また、学校だよりや学級通信を通して、情報提供や啓発を行いながら家庭との連携をさらに図っていく。

小中学校関係者評価

- ・地域の方の協力もあり学校の先生の努力もあり、地域人材を活かした活動や地域との協働・連携した活動などさまざまな活動ができた。皆さんの負担にならない程度にして、来年度以降も地域学校協働活動が持続可能な活動になるようにしていきたい。
- ・地域との関わりがある総合的な学習の時間がたくさんあるのは知らなかった。小学校から仕事の勉強もできるので良い。PTAとしては地域との交流イベントも考えたい。
- ・学校は地域や家庭と協力して子どもたちの教育活動を進めていこうと努力されているのが分かる。引き続き取り組んでいただきたい。
- ・学校行事、地域行事それぞれ参加し、ともにそれぞれのコミュニケーションが取れた。あいさつができる人とできない人も児童もいるようだ。今後も見守り通して声をかけていきたい。
- ・地域密着型でとてもありがたい。子どもたちも自分の地元が愛がある子に育つ。地域全体で子どもを見守れていることがよいことである。
- ・子どもたちと楽しく学習活動をさせていただいたので、今後もそんな機会を作っていただければと願う。